

プログラム・ノート

安田和信

18世紀はフルートとその音楽が普及した時代で、フルートを専門とする名人を多数輩出するようになる。アマチュアの世界でも紳士たちは好んでフルートを演奏した。そうした層も念頭に、プロの音楽家たちはフルートのための音楽を書き、出版している。世紀後半は特にフルート四重奏曲が人気を呼んでいた。そうした歴史の中に、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756～91)の作として知られる4曲も位置づけることができるが、いずれも成立や由来には謎が少なくない。

第1番 二長調 K. 285は自筆譜に日付(1777年12月25日)がある唯一の作品で、当時作曲者はマンハイム滞在中。同地にはフルートの名手やアマチュアがいた。特に医師のフェルディナント・ドジャンという愛好家はモーツァルトの書簡でフルート音楽の依頼主としてその名が現れるが、彼らとの交友が成立に関係した可能性が高い。急―緩―急の3楽章構成で、輝かしい両端楽章が短調のセレナードのような第2楽章と強い対比を生む。

第2番 ト長調 K. 285aは自筆譜が現存せず、作曲者の死後、1792年に出た初版のみで伝承されているため、成立時期は不明。2楽章からなるため、未完とも指摘されるが、快速でない第1楽章と、メヌエット風の第2楽章という組み合わせは18世紀後半では十分に完成されていた可能性もある。

第3番 八長調 K. Anh. 171 (285b)の自筆資料は僅かに残ったスケッチのみ。これは1781年に書かれた可能性が高いが、作品全体の成立時期はやはり不明。明朗さが際立つ快速な第1楽章と、ゆったりとした主題と6つの変奏による第2楽章という構成はK. 285a以上に未完成の可能性を示唆する。なお、第2楽章は同時期に成立した可能性もある。セレナード第10番「グラン・パルティータ」K. 361(370a)の第6楽章と同様な音楽である(どちらが先に成立したか不明)。

第4番 イ長調 K. 298はウィーン時代前半の1782年から85年に成立したと推測されている。第1楽章は優美な主題と4つの変奏で、フルート以外の活躍も目立つ。第2楽章はメヌエットで、躍動的な主部とフルートの流麗な旋律が印象的なトリオ(中間部)からなる。第3楽章は陽気なロンド形式楽章。主要主題に挟まれるエピソードの部分は必ずしも主要主題とは対比的でなく、むしろ同一の旋律を共有している点特徴的である。

なお、上記の成立時期に関する推測は自筆譜に用いられた用紙による研究に基づいている。